大崎市陸羽東線利活用促進検討会議について

**１　設置経緯**

　昨年７月のＪＲ東日本が開示した利用の少ない路線別の経営情報を踏まえ，危機的な状況にある陸羽東線の維持・存続に向けて，「大崎市陸羽東線再構築検討会議」を設置し，沿線地域に設置した地域懇談会や庁内検討会議等の議論を含め，再構築検討会議の役割とした利活用促進策をまとめ検討報告書を作成した。

　今年度より，この検討報告書に掲げる事業項目の具現化に取り組み，令和７年度までの３か年で古川～鳴子温泉駅間の１日あたりの平均通過人員を１，０００人台とする目標を掲げている。その目標達成に向けて，これまでオブザーバーであつた関係機関等より委員としての参画を得て体制整備を図り，組織名称を「陸羽東線利活用促進検討会議」と改め，一層の連携強化のもとで利活用促進に取り組む。

資料１

**２　利活用促進検討会議の役割**

　陸羽東線の維持・存続に向けて，再構築検討会議が取りまとめた利活用促進策の具現化を検討し，効果的な事業としての推進を図る。

＜所掌事項＞

　(１)　陸羽東線の利活用促進に関すること。

　(２)　陸羽東線沿線の地域活性化に関すること。

　(３)　庁内及び関係機関相互の調整に関すること。

　(４)　前３号に掲げるもののほか，検討会議が必要と認める事項に関すること。